

追悼文

奥田 和彦先生の突然の訃報に、驚き悲しみと共に大きな喪失感を感じずにはおられません。5月の上智大学での研究大会でお元気なお姿をと思っていただけに残念な限りです。心から先生のご冥福をお祈りさせていただきます。

奥田先生は 1993 年創設された日本消費者行動研究学会の初代会長を務められました。米国の **Association for Consumer Research** に遅れることほぼ 20 年、消費者行動研究者の有志が何度かカンファレンスを重ねてわが国にも ACR のような学会をとということで立ち上げた同志・奥田 和彦先生を亡くしたことは当時を知る会員一同の大きな悲しみであります。日本消費者行動研究学会は消費者行動に関する基礎的知識の構築に関心とし、実証的研究を重視すると共に、オープンで多様なアプローチを認める基本的性質を持った学会であります。設立当時のわが国でそうした学問的姿勢をそのまま持たれていた貴重な存在の研究者が奥田先生であり、先生の業績・風格・温厚なお人柄もあって初代の会長を引き受けていただいたのは自然な流れというべきものでした。そして、奥田先生に先頭に立っていただいた設立当初からの積み上げがあって、日本消費者行動研究学会は会員数でも、研究内容でも今日の素晴らしい姿へと発展することが出来たことに、改めて思い致すものであります。

私は奥田先生とは 80 年代半ばから LISREL の研究会仲間との共著『マーケティング理論と測定』（中央経済社）を出版できたこと、また先生のご著書『消費行動パラダイムの新展開』（白桃書房）の書評をさせていただくなどの学問的ご縁をいただいてきました。奥田先生からは学会の基本姿勢の点で同じ理念に立っていることの励みに加えて、先生の独自の研究姿勢から強い刺激を受けてきました。ご著書『消費行動パラダイムの新展開』は実証部分が前半になっていて理論部分が後半になるという驚くべき構成で、先生の前著『消費行動—その社会学的研究』（時潮社）をそのまま展開したものとなっており、とても真似のできないユニークさを感じました。また問題意識も財・サービスの取り揃えが消費者の集団的行動に及ぼす影響の解明というもので、消費行動といえば選択行動こそ研究課題との発想の自分には、全く目の付け所が違う研究もありなのだという新鮮な驚きと刺激を受けたことを覚えています。

奥田先生が、敬愛すべき存在でありながら、時には少し距離を取らせて頂いた事もあるのを述べることをおゆるし下さい。先生が学会で「ポパーの - - 」とか、「かのマックス・ウェーバーの言うところの - - - をどう受け止めるのか？」といった口調で、世界的に著名な学者の名前を挙げて丁々発止の議論に引き込

もうとする質問を真正面から向けてこられることに対して、挑発に乗らないように逃げるに如かずの手を取らせていただいた事をご容赦いただきたいと思えます。

奥田 和彦先生がヨーロッパの大学で教壇に立たれていたこと、専門を離れてもわが国への海外からの移住者の生活支援のボランティアをなされていたことなど、学ぶべきところ刺激を受けるところはその他数少なくないのですが、ご生前中にお応えできなくとも、これから会員の中でそうした面でも挑戦していく人が出てくると確信しています。

奥田先生、どうぞこれまでと同じように日本消費者行動研究学会の発展をこれからもお見守り続け下さい。学会員一同、一層の精進に励んでいくことをお誓い申し上げますと共に、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

令和元年5月31日

名誉会員 阿部 周造